

山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
2003 年 OB 通信第一号
通巻第 28 号

2003 年 7 月発行

目次

第1章	OB会から	1
1.1	2003年OB会総会を開催－多数のご参加をお待ちします－	1
1.2	2003年OB総会・懇親会及び記念山行のご案内	1
1.2.1	総会・懇親会	1
1.2.2	記念山行	2
1.3	OB会費納入について	2
第2章	現役部員近況報告－本部編－	4
2.1	執行部近況報告	4
2.1.1	執行部紹介	4
2.1.2	入部者	4
2.1.3	第43期執行部スタート	4
2.2	2003年春合宿 小宝島 SURVIVAL Party	5
2.3	夏合宿コース紹介	6
2.3.1	植本 Party (山域：南アルプス甲斐駒・仙丈・白峰三山)	6
2.3.2	後藤 Party (山域：南アルプス白峰三山・荒川三山)	6
2.4	アフター・一年生合宿紹介	7
2.4.1	アフター紹介 (山域：白馬岳・雪倉岳・朝日岳)	7
2.4.2	一年生合宿紹介 (山域：美ヶ原)	7
第3章	現役部員近況報告－工学部編－	9
3.1	執行部近況報告	9
3.2	2002年度春合宿報告	9
その他		11

第 1 章

OB 会から

1.1 2003 年 OB 会総会を開催 –多数のご参加をお待ちします–

OB 会長：末國弘司

山口大学ワンダーフォーゲル部（本部）が誕生してからはや 40 年が過ぎました。OB 会が新組織に移行してからも既に 2 年を経過しようとしております。会としてはまだまだ未熟な段階ですが、向かうべき方向は見えつつあると感じております。しかしその道を歩み今後の展望を切り拓くには、これからがいよいよ正念場であろうと思えます。会員諸氏の一致団結と一層のご協力が不可欠であります。

次への発展に向けて、2003 年の OB 総会を 10 月 11 日（土）に山口市で開くことと致しました。多くの会員諸氏のご出席を心から希望いたします。昨年、2002 年総会は、前回 OB 通信でご報告の通り、10 月 5,6 日に東京支部発足を兼ねて東京で開き、5 日の総会及び懇親会には多くの会員のご出席を頂いて盛会を極め、翌 6 日の高尾山登山とも成功裏に終わりました。ここに改めてお礼を申し上げます。今年も昨年に負けず多数のご出席を願って、世話人一同張り切っております。お互い気軽に声を掛け合い、ご家族と一緒にご参加頂き、交流を深めようではありませんか。

今年の OB 会活動方針として、会員間の交流の活性化を図り新たな支部結成へ向かうことを掲げました。支部結成の促進は、会員間の親睦・交流を推進するためにはその拠点としての支部が必要であるとの認識からです。しかし残念ながら、これらが順調に進捗しているとはまだ申せません。

当初、今年の総会は出来れば九州で開き、九州の会員間の交流活性化の起爆剤になれば、ひいては支部結成への道筋を付けられればと願い、九州開催を打ち出していました。このことについて広くご意見を賜ろうと、4 月 19 日に山口近辺在住の OB 諸氏に参集願い協議をいたしました。その結果、今年はぜひ山口で開きたいとの意向が強く、その席で急遽世話人会が結成されましたので、九州開催は次回に譲ることとし、今年の総会運営を世話人会に一任した次第であります。ここに、OB 会の発展へ向けてより一層のご理解を頂き、積極的なご支援・ご協力を重ねてお願いする次第であります。

総会では、会の運営上基本的な手順は踏ませて頂きますが、本来の目的は OB 会員相互の交流にあります。総会を契機に会員間の親睦が深まり、年代を越えて交流が日常化すればと願っています。会として機能するためにも、会員相互の連携が保たれていることが不可欠であると信じております。

総会・懇親会及び記念山行の詳細については、別掲のご案内をご覧頂きたく存じます。

1.2 2003 年 OB 総会・懇親会及び記念山行のご案内

世話人代表：山本充二（1972 年 3 月卒）

1.2.1 総会・懇親会

- 開催期日：平成 15 年（2003 年）10 月 11 日（土）
- 時間：17:00 ~ 19:30 頃

- 場所： 山口市熊野町 4-29 「防長苑」 (Tel: 083-922-3555)
- * 宿泊希望者は「防長苑」に、標記総会参加者である旨告げて、各自直接お申し込み下さい（一定の宿泊部屋数を確保しています）。
- * 自家用車で来られる方は、防長苑駐車場に十分スペースがあります。
- * なお、「防長苑」宿泊が満室の場合、近隣の下記をお薦めします。
「翠山荘」... 083-922-3838
「セントコア山口」... 083-922-0811
(いずれも予約出来ない場合、末尾の世話人にご連絡ください。)
- 総会会議内容： 事業・会計報告、監査報告、支部活動報告、予算等、役員改選、次期開催地など。
- 懇親会内容： 久々の出会い、楽しい交流会となるよう企画中です。
- 懇親会参加費： 1人当たり7千円（当日受付にて）。

1.2.2 記念山行

総会に先立って、当日、記念山行（東鳳翩山・萩往還道コース）を行います。懐かしの山路を辿り、湯田温泉にゆったり浸って、総会・懇親会に臨みませんか。参加希望者は、山口駅前、午前 11 時に集合してください。

コース日程等（10月11日（土）11:00 山口駅集合）

11:10 山口駅（配車） 天花畑 ... 六軒茶屋（萩往還道）... 坂堂峠 ... 東鳳翩山 ... 天花畑（配車） 16:00 湯田温泉「防長苑」

- * 昼食、飲み物等は各自持参です。
- * JR、バスで山口駅へ来られる方は、当方で配車します。
- * 登山口と下山口は同じ（天花畑、駐車場あり）ですので自家用車で来られても OK ですが、一旦、山口駅にご集合下さい。

OBの皆様へ

久々に多くの仲間、懐かしい顔ぶれが集います。声掛け合ってご参加ください。家族旅行を兼ねての参加も大いに歓迎です。.....山口総会引受け世話人一同

参加の有無は、まずは同封の返信用はがきで、8月末までにご連絡をお願いします。

1.3 OB 会費納入について

OB 会事務局

来年度分の OB 会費を納入されていない方は下記へ納入して下さいますようお願い申し上げます。同封の郵便振込み用紙をご利用ください。

郵便局：01530-0-16050

山口大学ワンダーフォーゲル部

また、会費納入は1年分納入、5年分一括納入のどちらかで御支払い下さりますようお願い申し上げます。

- 1年分会費：2,000円（夫婦会員は二人で3,000円）
- 5年分一括納入：10,000円（夫婦会員は二人で15,000円）

注 会費を口座に振り込んでくださる際、口座引き落としにされると当方に明細書は届くのですが、振り込まれた方の御名前が通知されず、当方で確認が取れません。払込用紙を使って振り込んでいただくと、その払込用紙のコピーが当方に届きますので、御手数ですが必ず払込用紙を使って会費を納入して下さいますようお願い申し上げます。なお、各皆様の払い込み年度を別冊の“2003年OB会会員名簿”に記載いたしておりますのでそちらをご参照ください。

第 2 章

現役部員近況報告 ー本部編ー

2.1 執行部近況報告

2.1.1 執行部紹介

今年度の新役員、係を紹介します。

主将、記録図書、トレーナー	植本 洋（理三年）
副将、会計、装備、山行技術	後藤 達彦（経三年）
主務涉外、気象、メッチェントレーナー	河口 恵子（経三年）
エッセン	井手口 謙三（経二年）
衛生	生田 将吾（経二年）
サブトレーナー、サブ装備	松下 譲司（経二年）

今年は三年生が 3 人という事で、二年生に係の仕事任せました。二年生の働きでだいぶ三年生は助かっています。

2.1.2 入部者

今年度の入部者は男が 6 名、女が 2 名の計 8 名です。活動者が 6 名しかいなかった 4 月の初めに比べると、全然活気が違います。皆個性派ぞろいです。今年度の部員数は以下の通りです。

	1 年	2 年	3 年	4 年	計
オッチェン	6	3	2	2	13
メッチェン	2	0	1	0	3
計	8	3	3	2	16

2.1.3 第 4 3 期執行部スタート

本部第 43 期執行部主将：植本洋

僕らの執行部は今年の 1 月からのスタートとなりました。例年と違い、少し早いスタートだったので何かと分からない事が多く、不安が大きかったのが思い出します。ただ、ほぼ 1 年近く一緒に活動を行った一年生（現在二年生）と僕ら執行部だけの活動だったので、お互いが分かっており、それぞれがやる事も大体把握しているので、どうにも実感の少ない期間であったとも思います。

やはり、4 月からが執行部として活動している実感を実際に感じる事になりました。まず、僕らが去年、執行部として考えた第一目標は『新入生獲得』でした。4 月初めに現役は二、三、四年生合わせても 8 人しかおらず、実際に活動を行う二、三年生は 6 人と寂しいものでした。工学部においても現在二年生が 1 人で、四年生やささらに上の先輩の方と一緒に活動を行っている状況です。この現状を打破するべく多くの部員獲得を狙うのは当然でした。

幸い一年生は 8 人も入り、部の雰囲気は一転賑やかなものになりました。僕らはこの 8 人もも夏合宿に連れて行きます。今回は工学部二年の河田とも一緒に夏合宿に行く事になったので一年より上級生の方が 1 人少ないということにな

りました。過去、山大は man to man が基本だったのですが、Party としては、後藤 Party が上級生 4 人の一年 4 人。植本 Party が上級生 3 人の一年生 4 人でコースの強弱を考慮してもバランスとしては悪いものではないと考えています。

ともかくも、今年は新しい事が多く、それに伴い支障や問題が起こると考えて行動しなければいけません。新しい事をやるのはいいですが、その結果、水準が下がる恐れが多分にあり、水準を下げないようにどうするかを考え、またどの程度まで水準を下げて大丈夫か、この程度の水準でも可能ではないか、も検討して活動を行うようにしています。なにぶん、予測、観測が多くなってしまうのが欠点で、支障や問題程度ならまだしも、「事故」ということにならないように、十分配慮し、熟考するようにしています。

僕らの執行部は、基本となる構造の改革も大きな目標です。大学カリキュラムも変わり、部員も減少している現状では、それが必要であると考えました。しかし、安全面が最重要であるというのは変わりがなく、それらの妥協点を考えつつ変えていこうというものです。ただ、昔のワングルの風習や伝統はできる限り残したいとは思っているのですが。

ぐだぐだと長くなってしまいましたが、現在主将は、僕、植本洋がさせて頂いております。副将、会計は後藤達彦、主務渉外は河口恵子が務めております。係の方は二年生にも幾つか任せており、執行部としては大いに助かっています。このメンバーで、今年度を乗り切り、充実した 1 年を過ごせばいいな。一年生がワングルを楽しみ、いい思い出を作ってくれば嬉しいな。と思っています。その為には、皆で力を合わせて頑張っていきたいです。

2.2 2003 年春合宿 小宝島 SURVIVAL Party

PL：植本洋

結果報告が大変遅くなり申し訳ありません。2003 年 3 月 4～6 日に行った春合宿サバイバルパーティーについて報告したいと思います。当時の一年生 4 人、二年生 2 人の計 6 人で行いました。結果は残念ながらエスケープでしたが、現地の人たちに暖かいもてなしをしてもらい、とても嬉しかったことが思い出されます。

アプローチ 2003.3.4 他大学や先輩からたくさんの差し入れ、有り難う御座いました。現地の港に着くまでは食べられる（現地に着いてからは、米以外自分たちが獲得したものしか食べられない）、というので、結構がつきました。やがて鹿児島島の港に着いてからは長い船旅です。いざ、僻地レベル最大級の島へ。

一日目 2003.3.5 昼間に小宝島に到着。天気は冴えず、風は強い。小さな島で、15 分程歩くと島の反対に出てテントを張りました。即刻、今日の晩飯の為に釣りに出かけました。しかし、何分たっても釣れないし、風は強くなり、雨が降り出す始末。カニがちょろちょろしてるのは頭にきました。結局、うちきってテントへ。貝を捕りましたが食べられそうになく、食べたくもないので明日の釣りの餌に持ち越し。この時にはかなりの風。

二日目 2003.3.6 朝から暴風雨。沈決定。テントを押さえたりしましたが、8:30 頃テント破損。修復するにも風が強すぎて、している間に大破の可能性があります。暴風雨が収まりそうにないので避難決定。パッキング時に、断マツやらが何から何まで飛ばし始末で大変苦労しました。幸い現地の施設を 2 日間程借りれたので助かりました。翌日来る予定の船は来ず、その日は釣りをしました。結構釣れたのは良かったのか、悪かったのか。

悔いが残るのは、テントが破損したときに、僕はテントにもたれかかりながら（押さえながら）寝ていたことです。もっとちゃんと押さえ、一日中みんなで闘っていれば良かったと思います。昼過ぎから、風は弱くなってきたのは確かだったからです。

また、小宝島についての気象の把握がおろそかだったこともあります。小宝島のような直径 1km 程度の孤島では、低気圧の影響が台風並の強風（20m/s くらい）になること。今でも、竹山という小さな山があって、竹ばかり生えているのですが、その強風時には、それらが全てウェーブをうち、まるで山全体が生き物のようで気味の悪い光景が思い出されます。

しかし、地元の人々の温かい心には感謝しています。合宿終了後、夜ご飯にイカの刺身やおにぎりを頂いた方や突然「焼酎を飲もう」と言って来られた方がおられ、とても楽しい思い出ができたと思います。ワングルの素晴らしさは人間のふれあいも一つだと深く思いました。

最後にこの合宿を立てるにあたり、御指導、御鞭撻下さった先輩方にお礼申し上げます。有り難う御座いました。結果は残念なものでしたが、得るものは僕自身大きかった合宿であったと思います。

タイムテーブル

- 一日目 小宝島港 (12:10/12:30) 湯泊港近く (12:48) テント設営 (12:50) 湯泊港近くで釣り (13:15) 釣り終了 (14:30) 貝取り (14:40) 貝取り終了 (15:30) テント移動・設営 (16:00) 釣果：無し (貝少々)
- 二日目 沈決定 (6:30) 本テン破損 (8:30) 合宿終了 (8:40) エスケープ

2.3 夏合宿コース紹介

2.3.1 植本 Party (山域：南アルプス甲斐駒・仙丈・白峰三山)

PL：植本洋

この度、夏合宿のPLを務める事になりました植本洋と申します。このPartyは6泊7日をかけて、南アルプスの甲斐駒、仙丈、白峰三山を登ろうというコースです。アプローチに二日をかけて北沢峠に入り、甲斐駒、仙丈をピストンします。ついで、広河原から大樺沢右俣を通過して北岳を目指し、稜線散歩を楽しみつつ間ノ岳、農鳥と登り、奈良田に下ります。農鳥でこのコースのメインは終わりですが、最後、大門沢下降点から人の少ない広河内岳をピストンして「ああ、あそこを登ったのか。」と思うのがPLの密かな楽しみでもあります。

P-menは、三年が2人、二年が1人、一年が4人の7人Partyです。夏合宿が素晴らしいものとなるよう頑張っていく所存です。為には、皆で力を合わせて頑張っていきたいです。

2.3.2 後藤 Party (山域：南アルプス白峰三山・荒川三山)

PL：後藤達彦

こんにちは。夏合宿でPLを務めさせていただきます、後藤と申します。僕のコースは南アルプスを北部から南部まで縦走するという壮大なコースです。アプローチは新幹線で静岡まで行き、そこから電車で身延まで行きます。タクシーで広河原まで行って、広河原山荘のキャンプ場に泊まります。

一日目は大樺沢の右俣コースで北岳肩ノ小屋まで行き、ここに泊まります。

二日目は北岳、間ノ岳に登り、農鳥小屋で泊まります。晴れていれば北岳からのご来光が素晴らしいと思います。

三日目は西農鳥岳、農鳥岳をピストンして、三国平へ三国沢経由で向かいます。三国平から熊ノ平小屋まで行き、そこで泊まります。

四日目は北荒川岳に登り、雪投沢キャンプ場に泊まります。

五日目はメインの一つである塩見岳に登り、三伏峠小屋で一泊します。

六日目は烏帽子岳、小河内岳、板屋岳を通過して高山裏避難小屋に泊まります。

七日目は荒川三山に登り、荒川小屋で泊まります。

八日目はこれまたメインである赤石岳に登って、ひたすらさわら島へ向かって下ります。2000mを超える高低差があるので、疲労からの事故に気をつけたいと思います。

九日目はさわら島から畑籾第一ダムまでひたすら林道歩きです。コースが長く、体力的にきつい合宿になることが予想されるため、パーティーのトレーニングは強度をかなり上げて頑張っています。後輩はよくついてきています。この調子で合宿まで気を抜かず頑張りたいと思います。

2.4 アフター・一年生合宿紹介

2.4.1 アフター紹介 (山域：白馬岳・雪倉岳・朝日岳)

PL：井出口謙三

はじめまして。2003年アフターのPLをさせていただき事となりました井手口謙三です。北アルプスのような2000mを超える山々の山行のPLを務めるのは今回が初めてですが、P-menの良き思い出となるよう精一杯頑張りたいと思います。

今回は北アルプスでも北方の白馬岳から雪倉岳を通り朝日岳へ行くという3泊4日の縦走計画を立てました。なんと言っても目玉は2日目の白馬尻から白馬岳の間にある大雪渓です。9月ともなると雪渓もだいぶ溶けてしまっている部分もあるそうですが、それでも万年雪という大自然が生み出した芸術に胸を打たれることでしょう。また大雪渓だけでなく、日本百名山にも選ばれている白馬岳、朝日岳の展望も圧巻です。

ただ一つ、3日目のコース(白馬岳・雪倉岳・朝日岳縦走)が大変長く、しかもレーションという強行軍なので、少しの不安はありますが、そこは上級生の気合いと根性でカバーできるものと信じております。何よりもP-menを無事に帰す事を一番に考え、楽しんでこようと思います。

2.4.2 一年生合宿紹介(山域:美ヶ原)

一年生合宿責任者: 園田純平

今年の一年生合宿は例年通り、美ヶ原高原に行ってきます。9月2日から6日まで、アプローチ1日、山行1泊2日、予備日2日の予定です。

アプローチは松本からバスに乗り、三城バス停で降り、そこから広小場キャンプ場へ向かいます。ここが言わば今回の一年生合宿の基地で、アプローチも1日目もここにテントを張ります。ここが今回の一年生合宿の基地となるわけです。

1日目は石切り場から登ります。メジャーなのかマイナーなのか、一般の登山客はほとんど通らず、下草や木の枝がわずらわしいという道です。途中まで眺望もなく、ひたすらに急坂を登ります。今年の一年生は8人ですが、そんなところでどんな会話が繰り広げられるのか、もしかすると誰も口を開かないかもしれません。そんな「何でこんな道選んだんだよ」というパーティー内に流れるかもしれない不穏な空気を吹き飛ばしてくれるのが、登りきった先の王ガ鼻にあります。アルプスが松本盆地を挟んで遠くに見えるはずですが、これできっと重い空気だったパーティーも明るくなるはず(きっと)。

王ガ鼻からはひたすらに広い高原を縦走します。次に向かうのは美ヶ原の最高地点、王ガ頭です。鉄塔が立ち並び、大きなホテルが立つピークはどの意見を聞いてもボロクソです。ほめている意見を聞いたことがありません。そこで今回の合宿ではあえて褒め称える方向でいきたいと思えます。尾崎喜八郎氏の「...世界の天井が抜けた...」に勝るとも劣らない褒め言葉で臨むつもりです。

広々とした牧場の柵の中の道を歩き続けます。どっちが飼われているのか分からなくなりそうですが、この広い高原の上では、柵のどっち側かなどたいしたことではないのかもしれませんが。晴れてさえいればここからも周りの山々が美しく見えるはずですが。しかし、たとえガスが出て、それはそれで幻想的な風景でありましょう。そこで顔の毛という毛にカビのように水滴をつけるのもまた一興です。道は塩くれ場へと向かいます。

塩くれ場から牧場の中に入り、茶臼山へ向かいます。途中牛や牛の糞に気をつけながらゆるやかな草原を抜けていきます。茶臼山もまた展望がすばらしい山で南には三峰山から霧が峰へ山稜が延び、その向こうに蓼科山、八ヶ岳、富士山、アルプスがずらりだそうです。たとえ今名前を挙げた山がどんなものか分からなくとも、その景色だけでおなかいっぱいになれることでしょう。

1日目は美ヶ原を東西に横断しました。2日目は南北に縦断します。広小場を出て、百曲がりくねくねとゆっくり登っていきます。やはり途中の眺望は木々に覆われまったくありませんが、それだけに広い高原に出たときの意外さは身にしみるといえるものです。詩も書けるほどですから。再び高原に出たわけですが、そこからさらに北に向かいます。牧柵を抜け沢を下ります。焼山沢という沢です。十年ほど前までは荒れに荒れた道だったそうですが、今はきれいに整備され、小学生が遠足で登ることもあるそうです。それでも車で登れる美ヶ原をわざわざこの道から登る人は少なく、苔に覆われた静寂の道となっています。この道の目玉はその静寂を破る焼山滝です。別名不動滝とも呼ばれ、かなりの落差を持ち、しぶきを上げて、瀑声を轟かせています。そしてこれが美ヶ原の最後の挨拶となります。

その後も沢沿いに下り、ロードに出るすぐの栗栗上というところで一年生合宿は終了です。壮大な夏合宿後の美ヶ原は少し物足りなく感じるかも知れませんが、初めての一年生だけの山行です。その意味でも楽しむと同時に学ぶべきも

のを学んで、夏合宿の「しめ」としたいです。

第3章

現役部員近況報告－工学部編－

3.1 執行部近況報告

工学部第41期主将：柴崎洋子

現在、工学部ワンダーフォーゲル部は、二年1名、四年3名、在学OB1名の計5名の構成となっております。本来なら三年と二年が現役として活動しますが、今年は二年1名で三年もいないので、四年・在学OBがサポートしています。

活動についてですが、四年・OBは各々の研究により忙しく、長期休暇が取れない可能性も高いため、合宿など、日数の長く、準備にも膨大な時間を要する活動は無理と思われると思います。よって、今年は合宿やリーダー資格取得などは本部とやってもらうことになりました。

今年の主な工学部での活動は、日々のトレーニング、大山での雪上訓練です。今、四年が梅雨明けのFWを計画しています。二年は週末、本部でのP-meeなどに参加し、夏合宿に向け頑張っているようです。今年は1人で寂しいかもしれませんが、来年はたくさん工学部に来るようなので、頑張ってもらいたいと思います。

3.2 2002年度春合宿報告

PL：柴崎洋子

前回のOB通信には、工学部の春合宿はPL小松で、西表島に行く予定と書きましたが、準備不足により、私がPLを引き継ぎ、西表島にアプローチ2日で、3泊4日の合宿を立て行ってきました。結局はエスケープとなったのですが、簡単に報告します。

アプローチ1日目(3/1) この日は朝から雨。宇部の東新川駅で3人の先輩方に見送られ、3人で笑顔で出発。いよいよ最後の合宿だ。福岡空港までは電車で新幹線に地下鉄と乗り継ぎ行った。次は、飛行機。機内では3人とも寝ていて、気づけばもう石垣島だった。飛行機から降りた瞬間3人とも、ビックリ。暑い暑い。皆半袖になって、今日の野宿の場所、石垣港に向かった。

アプローチ2日目(3/2) 6時半起床。西表島までの乗船券を買い、朝食をとり、8時出港。50分程で西表島に着いた。今日は、港からヤエヤマヤシ展望台まで行く。今日も晴れていて暑く2時間半程錬成状態だった。夕飯まで3人とも昼寝や読書で過ごした。夕飯はキムチ鍋だった。夜、蛍の様に尻を光らす虫がいた。空は無数の星、周りは光る虫。素敵な夜だった。

1日目(3/3) いよいよ今日はジャングルの中に入って行く。ヒルとハブに怯えながら、時々木にテープがつけてあるのを頼りに進んでいった。アップダウンの激しい迷いやすい道だった。ついて行くのに必死であまり周囲を見てないと、「あれ、テープが向こう岸に見える…」なんてことも何度かあった。突進していく2人をストップさせ道を正す。SLさんを信用してはいけない！今日は第一小屋にテントを張る。横には川が流れている。暑くて食欲がないので、皆で川で涼んでから昼食をとった。この日、夕方から雨が降ってきた。

2 日目 (3/4) 雨のため、沈。

問題発生。念の為、部員を病院に連れて行く事になり、15 時 50 分、テント撤収開始。日が暮れたら大変なので走ってジャングルから出て、携帯電話の電波が入ったところでタクシーに電話。20 時過ぎ、病院到着。

こうして、私達の最後の合宿は終わりました。病院に行った彼ですが、その日少し腹がゆるくなっただけで、全く問題はなありませんでした。この一年間三年生 3 人の部員でやってきましたが、大きな怪我もなく活動でき良かったと思います。いろいろアドバイス下さり、見守って下さった先輩方、ありがとうございました。

その他

OB 会の名称と図案募集中

OB 会の名称と図案（ワッペン等に利用）を募集しています。多数の力作をお待ちしています。採用者には豪華賞品を贈りますので、奮ってご応募ください。応募は事務局または会長、副会長宛にお願いします。

編集後記

編集：藤田康雄

現役部員が夏合宿へ向け着々と頑張っている中、心の中に“登山”をしたい気持ちが湧き上がってきます。来年の夏にはどこかへ登ろうかと密かに決心している自分です。

今回の OB 通信発送においては、会長、副会長をはじめ、作成に携わっていただいた OB の方々に大変な苦勞をおかけしました。自分はまだまだ足りない点が多いと自覚した次第です。また、制作に協力してくれた現役部員の皆さん、忙しい中手伝ってくれて本当に助かりました。ありがとうございます。